

TNTmips DV2011 新機能の概要

(2010. 7. 10 更新)

新高速 LAS(LIDAR) オブジェクト

- LAS ファイルをオブジェクトとして直接選択
- タイル化していない LAS オリジナルファイルを使用可能
- 最初にリンクファイルを構築して使用
(ポイントの空間インデックスの生成)
- リンクに境界領域を含む
- LAS v1.3(full waveform) をサポート

LAS オブジェクトの利用

- 数秒で数百万個のポイントの参照が可能
- 標高、強度、クラス、ヒット数によるポイントの自動色分け
- 凡例に標準 ASPRS クラス名を表示
- 凡例にカスタムクラス名を表示
- LAS ファイル中のポイントのクラスの編集
- クラスを編集してもリンクは不変
- クラスが編集されても全ポイントを保持
(全 LAS ポイント / 位置が維持されます)
- 他の処理での使用 [予定]

LAS オブジェクトからの自動地表面生成 [予定]

- クラスでポイントを選択して地表面として表示する
- 他のレイヤとともに DEM として地表面を使用
(例えば、陰影付きの起伏レイヤ)
- クラスでポイントを選択して地表面に重ねて表示する
- ポイントを選択、再分類して地表面を変更する
(例えば、建物として再分類されたものは DEM 地表面から削除する)

インターネット上のタイルセットの高速表示

(2秒で典型的なリモートタイルセットを任意の縮尺でレイヤ追加。TNTmips 2010 では 20 秒。)

- タイルの検索に使うスレッドの分離
- サーバへ複数接続を張ります
- GIF タイルを使用したタイルセットのリンクと使用
(他のアプリケーションでは PNG タイルの代わりに GIF タイルが使われます)

タイルセット定義ファイル (*.tsd)

- 複数タイルセットをグループとして扱う
(例えば、1つのタイルセットで同じ場所の複数時期データを扱う)
- URL 内のタイルセット名が可変的に扱えます
(例えば、新しい日付のタイルセットを自動的にリンク)



タイルセットの抽出

- 複数の既存タイルセットを入力として選択
- リージョン、シェイプファイル、KML で領域を定義できます
(例えば、川や道に沿った領域)
- より小さなポータブルなタイルセットの生成
(例えば、限られた容量のストレージデバイスで使用する時)
- 境界上のタイルは自動的に切り取られます
(JPG ファイルは PNG ファイルに変換されます)
- 境界上のタイルを切り取らないオプション
(例えば、境界上の JPG タイルを JPG のままにしておきます - 端がギザギザの状態)

タイルセットマージの機能追加

- zip 圧縮のタイルセットを入力として使う
- ズームレベルを指定して入力タイルセットをマージする
(それぞれの入力タイルセットで使うズームレベルを選択する)

タイルセット管理の機能追加

- タイルセットの zip/unzip 処理のマルチスレッド化

タイルセットエクスポートの機能追加

- デフォルトで 8bit 透過 PNG タイルを生成
8bit 化によりサイズを 30% に減少
読み込む時間が 3 倍高速に
ネット使用バンド幅が 30% に減少
- 32bit の PNG タイル - オプション

タイルセット構造の機能追加

- タイルセットによる新しい地図
- 各ズームレベルのタイルを 8bit 値で生成
- タイル特性に応じたビット深度定義
(例えば、JPG、8bit PNG、32bit PNG)
- タイルセット構造のビット深度
- 親タイルセットに別のタイルセット構造を格納できます
- TNTmips でのズームレベル毎のタイルマスクの表示
(例えば、タイルの種類 / ディストリビューションのバリデートの可視化)
- 既存の HTML 診断ツールを使ったタイルマスクの表示
(例えば、Web サイト上のタイルの種類 / ディストリビューションのバリデートの可視化)
- 他の複数使用方法を計画
(例えば、存在によってタイルのアクセスを速くします)

新しい KML レイヤ

- KML や KMZ をレイヤとして使用
ローカルファイルを表示に追加
インターネット上のファイルを表示に追加
スタイルを使ってラインを表示
塗りつぶしを使ったポリゴンの表示 [予定]
スタイルを使ったポイントの表示
埋め込み / リンクされたラスタの使用
- KML/KMZ のコピーをオブジェクトとしてローカルに保存
- インターネット上の KML/KMZ ファイルへのリンクをローカルに保存
- KML/KMZ ファイルを他のオブジェクトにインポート



Google Earth(GE) でのマニフォールドの表示

- 複数の地質断面を GE に表示
- SML スクリプトでマニフォールドのデータを COLLADA *モデルに変換
(GE が建物の突き出し表示に使用しているのと同じモデル)
- COLLADA モデルを KMZ ファイルに変換
- GE で 3D 断面図として表示
(複数の断面図をカーテンウォールのように表示)
- GE での断面図の上下移動表示
(地形図上でカーテンを上げたり下げたり)

* COLLADA : 対話型 3 次元コンピュータグラフィックスアプリケーション間の交換用ファイルフォーマット。“COLLABorative Design Activity” の略。

Google Earth でカスタム地形図を使う

- 小さな TNT レイアウトを DEM 上にドレープして表示
- SML スクリプトでレイアウトと DEM を 3D モデルに変換
- ドレープと DEM の COLLADA モデルを作成
- COLLADA モデルを KMZ ファイルに変換
- GE 地形図上の垂直方向のオフセットを指定
(カスタム地形と GE の地形データとの交差を避けるため)
- オフセットゼロで作られている場合は GE で地形レイヤを表示しない
- TNT の地形タイルセット作成処理のベースとなる可能性
(広範囲をカバーする COLLADA-KMZ タイル)

ジオビューアを起動して表示ウィンドウと連動させる

(現状はまだ初期段階。縮尺、座標参照系やジオロック同期表示が正確に合っていません)

- "Google アイコン" を使って同じ領域を開く
Google マップで /Bing Maps で /Google Earth で
- ジオビューアのツールで KML を作成
Google マップの My Maps ツール
Google Earth の Sketch Up
- リモート KML レイヤを表示ウィンドウで使う
- ローカル KML ファイルとして保存、使用
- 各種図形オブジェクトとして保存 [予定]

Google の My Maps レイヤの直接表示

- 表示マネージャの [Web レイヤを追加 (Add Web Layer)] アイコンで選択
- メニューから [My Maps] を選択
- My Maps の Gmail アカウントとパスワードを入力する
(これらは繰り返し利用のために保存されます)
- この My Maps アカウントに TNT からアクセス
- パネルには、公開または非公開の My Maps が表示されます
- リストには Google マップでアサインした名前が表示されます
- My Map から名前を選んで表示に追加
(追加するには URL は必要ありません)
- クリックで My Map リストを更新
(保存した Gmail アカウントとパスワードを使用)
- GM を自動的に開いて新規の My Map を作成するオプション
(保存した Gmail アカウントとパスワードを使用)



Gogle マップ (GM) を使用したジオリファレンス [予定]

- TNT ジオリファレンス処理でレイヤを表示
(任意の座標参照系を使用可能)
- 自分の My Maps リストにアクセスできます
- このリストから GM を起動できます
- GM のプレスマークツールを使ってコントロールポイントをマーク / 保存
- My Maps リストの更新
- ジオリファレンス処理で My Maps レイヤを選択可能
(プレスマークは自動的に TNT の座標参照系に変換されます)
- TNT の表示画面でコントロールポイントをドラッグして正しい位置に修正
- My Maps の表示画面を保存して GM で開けます
(参照レイヤとして利用、プレスマークの修正)

Web レイヤ選択ウィンドウ [予定]

- [Web レイヤの追加 (Add Web Layer)] アイコンの代わり
- ローカルの地理データを使用するのと同様のデザイン
- あらゆる種類の Web ベースの地理データの使用
 タイルセット (*.tsd)
 My Maps (*.kml)
 KML/KMZ ファイル
 Web Map サービスレイヤ (WMS)
 ArcIMS レイヤ
- Web レイヤを追加表示する前にプレビュー可能
- 各 Web レイヤ毎のコントロールウィンドウ
- Web レイヤの URL を保存、名前付け、選択

簡単な新フローティングライセンス

- 新 HASP Net フローティングライセンスキーの使用
- ライセンスマネージャは必要ありません！！！！
- キーは Windows や Mac の USB ポートに接続できます
- クライアントは Windows XP、Vista、7 および Mac 10.4、10.5、10.6 で使用
(32bit と 64bit バージョンに対応)
- 固定ライセンス HASP キーと同様の簡単なインストール
- TNTmips の前のバージョンには対応していません
(TNTmips 2010 以降の使用のみ適用)
- ライセンスは切り離しモードのオンライン状態で使用可能
- Admin コントロールパネルで全ユーザからアクセス可能
- FLEXIm ライセンスはサポート継続
(FLEXIm からのキー変更には 200 ドルかかります)

SML の機能追加

- 未定

